

令和7年度武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会議事要録

■日時：令和8年3月25日(水)午前10時から午前11時49分まで

■場所：武蔵野市役所西棟4階412会議室

■出席者：渡邊大輔（会長）、酒井陽子（会長職務代理者）、大坪健一、高橋邦房、村田学、大久保実、樋口伸男

午前10時 開会

1 開会（略）

配布資料確認（略）

2 委員及び事務局自己紹介（略）

3 議事

（1）当協議会の目的及びスケジュールについて

事務局より資料2、3及び4について説明があった。

（2）令和7年度事業実績報告

事務局より資料5及び資料7について説明があった。

【会長】 ただいま令和7年度のこの制度及びサポーター交流会の実績報告につきまして、事務局よりご説明をいただきました。

では、今の説明につきまして、皆様から何かご質問やご意見等はございますでしょうか。

では、少し考えていただいているうちに、1つ伺いたいのは、今回、説明会の参加人数が若干減っています。減ったことよりは、性別とか年齢とかは、どれぐらいの方々が多かったのかということについてまず教えていただけますでしょうか。それが昨年度と違っているのか、同じような傾向なのかについても、わかれば教えていただければと思います。

【事務局】 今年度説明会にご参加いただいた52名のうち、詳しい男女の数はすぐ確認できないのですが、大体1回の説明会で1人か2人の男性がいらっしやっただいてい

るというような状況になります。ですので、サポーター登録されている方が570名いらっしゃって、男性と女性の内訳を資料5の2ページの一番上に記載しておりますけれども、男女比は大体このあたりでずっと固定化しているかなというところでございます。

【会長】　　ちなみに、今年の説明会参加者の年代は、60代の人が多かったのか、それとも70代の人の方が圧倒的に多いか。

【事務局】　　65歳になってすぐの方も何名か入っていますが、やはり70代の方が多いと思います。

【会長】　　ありがとうございます。結構大事です。65歳は大体定年ないしは年金開始年齢ぐらいのところで、いわゆる仕事をやめるときの1つのタイミングなのですが、そこが大分減ってきていて、実際には70歳近くまで働く方がすごく多くなっている。あと、仕事をやめるときも、週5日からいきなり0になるというよりは、2～3日働く方が多くなった。そのときに、どういうタイミングで声かけをしていくのかというのが大事なのかなと思います。70代が多いとなると、1回そういう仕事から切れたすぐのタイミングというよりは、ちょっとしてから、やっぱり何かしなきゃなと思われる方が多くなっている。そこでどのようなアプローチがあるのかといったところは考えていくポイントなのかと思っています。

あと、そのほか男女比ですが、確かに男性が毎回1～2名で、男性はほとんどいないように見えるのですが、実は登録者を見ると、1対3なんです。登録者は意外に男性が多いというところもあります。男性の方は多分関心がないというよりは、お願いすれば登録はしてくれる可能性は結構あるので、どういうふうに説明会に来てもらうか。一歩目のアプローチを少し考えていく必要があるのかなと感じたところです。

【委員】　　私は民生委員をやっているのですが、そこでは活動の報告というのがございます。ペーパーベースで数字を書いて報告していたのを、昨年から二次元バーコードでスマホで読み込んで、そこでやるということを始めましたが、積極的にやる人と今までやっていたことを変えるのを躊躇する人という。ただ、そこを全員使えるようにと後ろからどんどん押していつている。この前はペーパーベースで出した人が何人かいましたけれども、それ以外は二次元バーコードを読み込んでいる。だから、やはり後ろから後押しする。そうでないと、最初の一步を踏み出さなくなるんじゃないかと思っています。

社会人として働いているときは命令でやりますけれども、定年になって自由になると、どうしても後ろから押されて、誘われて入る。だから、後ろから押してあげる力をどこで

使うかということです。

以前、民生委員の中に男性が5人いたのですが、その人たちも一番初めはコミセンとか、学校のお父さんの会とか、そういう会に入って、そこから芋づるで入った方々がいた。そのように仲間が欲しいというところのきっかけをいかにつくるかが大事です。そういうのを行政、市と社協さんといかにつくっていくか。コミセンにポスターを貼るとか、そういうことで参加者を募っていくというのが1つかなと思います。

【会長】 どうやってそのきっかけをつくっていくのか。その後きっかけをつくるだけではなくて、背中を押すような感じですね。先ほどの交流会の話もすごく大事だなと思うのは、初対面の2人がお話しして、「じゃ、一緒にやろうか」というのがあるのはすごく大事です。やはりああいう場でも、ボラセンの方から言われると、「じゃ、やってみようかしら」までは行くのですけれども、本当に次に行くかとなると、なかなかならない。でも、友達同士がいたり、あるいは友達になりそうな人がいると、「じゃ、一緒にやろうかな」というところがあるので、そのようなきっかけをうまくつくっていくことの重要さというものはあるのかなと思いました。

【委員】 資料5で課題2の「説明会の参加者が少ない」に対する実施内容の文章に、「地域デビューむさしのでのチラシ配布」と「介護保険65歳年齢到達者被保険者証送付時にチラシを同封」とあるのですが、チラシというのはこれ（「武蔵野市シニア支え合いポイント制度説明会参加者募集！」）でしょうか。

もう一つお聞きしたいのが、このほかに、年間を通して掲示板に貼るような、そういったチラシというのはあったのでしょうか。これは再確認です。

【事務局】 まず、チラシについては、委員のおっしゃるとおり、制度説明のチラシを市で、65歳になられた方に、その前月に介護保険の保険証を送付していますので、それと同封する形で送っています。昨年交流会にいらっしゃった男性の方で、それを見て来たという方が初めていらっしゃってうれしかったのを思い出しました。

あとは、日程については1年分を示せばいいのですが、上半期と下半期で、大体上半期分を3月中にホームページにアップして掲示するようにしていますので、あらかじめ半年分を掲示して予定が立つような感じで周知をしているところでございます。

「地域デビューむさしの」についてですが、同じチラシを配っています。「地域デビューむさしの」は、今までの「おとぼサロン」ですね。「お父さんお帰りなさいパーティー」というシニア層の地域での活動のきっかけになる事業を、今年度から名称を変更していま

す。

【委員】 お恥ずかしい話ですが、実はこちらのほうのケアハウスは掲示板がなくて、いつもコンクリートの建物に養生テープで、ラミネートして貼っていたのです。手間がかかるのと、周りから見ると、あまり見ばえがよくなかったものですから、うちの管理係の主管課のご了承を得て、今回、雨が降ってもいいようなガラス貼りの大きい掲示板を2つ、ケアハウス版と地域の方々が利用する版という形で作らせてもらったものですから、ぜひそういったものがあれば、こういったところに年間を通じて貼っておきたいなと思います。

【会長】 掲示板も、特に地域で動いている高齢者の方にとっては、意外に目に入ったり、「あっ、ここでやっているのか」というのが具体的なものがあって、実は意味があったりもしますので、ぜひ使っていただければと思います。

【委員】 2点ほどお話しさせていただきたいと思います。

1つは、ポイント交換場所です。市役所の窓口あるいはボラセンとなっておりますが、非常にアクセスが悪い。特に西部地区は市役所に来るまでも大変なので、なかなか交換できない。もっと言えば、ボランティアをポイントが欲しくてやっているわけではないので、どちらかというところ、二の足を踏むという声もよく聞きます。

もう一つは、説明会の件です。平日のみになってはいますが、私が所属している団体でボランティアをされている方で、お一方は仕事を持っておられて、土日ぐらいしか来られないという方もいらっしゃいます。できれば、そういう方のためにも、例えば出前式で、土日やるとか、そんなようなことも少し考えていただければと思いますので、よろしく願いします。

最後に1つ。資料7の「交流会実施報告」の2(2)「最近境南町に引っ越してきて、知り合いが少ないので」云々という項目ですが、この話はよく聞きます。ただ、その引っ越してきた方を捕捉する手段がない。もっと言えば、いいか悪いかは別ですが、引っ越してきた方は、必ず住民登録か何かされるでしょうから、そういったところにうまくあいにPRできるような仕組みができると、このポイント制度だけではなくて、ほかの市民団体その他もろもろ加入促進が図れるのかなと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

【事務局】 3点ご意見をいただきました。

まず、ポイントの交換場所については、西部地域は市役所にも社協にもなかなか行きづ

らいというご意見は確かに毎年いただいております。

今年度プレイスの交流会とは別に、3月11日に市民会館でもポイント交換会を行いました。できるだけ西部地域で交換しやすいように、また、市民社協のほうでは郵送でも受け付けていたりしますので、そういうところの勧奨をしていきたいと思っています。

2点目、説明会です。ご要望はもっともなんですけど、土日をあらかじめ社協と地域支援課で対応するというのはなかなか調整が必要かなと思います。なので、委員もおっしゃられたとおり、5名以上または5名に達しなくても個別に、出張や出前で地域に来てよと言ってもらえれば、その個別の調整の中で、土日も含めて対応が可能なのかという検討はさせていただきます。

3点目、確かに市に転入してきた人のピックアップは難しいと思います。地域社協のPR等で、転入者への周知ができるようなチラシを配れないかと以前もご提案いただいております。今、市民課で転入者に配るパンフレットは、かなりのボリュームがあるのですが、行政の広報物で一応ルールがあって、これを渡すというセットにパッキングされていますので、そこに足したりというのはなかなか厳しそうだったのですが、まさに転入されてきた方も、介護保険は武蔵野市が保険者になりますので、通知を送ったりしますので、市からの通知物とか、いろいろなところで拾える機会を検討していきたいと思っています。貴重なご意見をありがとうございました。

【会長】 最後の点ですが、私は10年ちょっと前に地域コミュニティの委員をやっていたときに、実は当時転入者がコミセンの場所すら知らないというのがありました。コミセンの場所すら知らないのはさすがにまずいだろうということで、かなり強力にお願いをして、自分が転入したときにどのあたりにコミセンがあるかという案内をしてもらおうということをやったりしていました。

恐らく新規にこの制度のためだけに入れてくださいというのは難しいですが、今あるものの枠の中に入れてもらうことは不可能ではないので、入れ方とかの考え方をいろいろ考えながら、ここに特化するというよりは、武蔵野市にはこんな活動があるんですよ。そこにこれもあるみたいな形にどうやってできるかということは考えていくことができるのかなとも思っていますので、ぜひご検討いただければと思います。どうやってアプローチするかということ、今みたいな様々なご意見を皆様からぜひお寄せいただいて、少しでもいろいろなところにきっかけをふやしていければと思います。

【会長代理者】 「説明会の参加者が少ない」「人数が伸び悩み」という話で、去年と

比べると、率としては、申し込んだ方の率は高くはなっているけれども、参加した方は少なかったという話です。

あと、先ほど会長は男女比が1対3とおっしゃったのですが、性別の特性もあり、女の人は気軽に人と集えるというのがある。

あと、先ほど他の委員がおっしゃったように、男の方が65歳とか70歳まで長らく働いて、ある程度の役職だったりされると、私の友人もみんなそうですが、ATMの使い方がわからないとか、新幹線のチケットのとり方がわからないとか、おおむね秘書がやっていたとか、部下がやっていて、地域で暮らすためのスキルが全くない旦那が多いというのは聞く話なので、そういう方たちがいきなり一市民になるというのは、なかなかハードルが高いんだなというのは実感しているところではあります。

その上で、3点ほどあります。まず、説明会の参加者が少ないということです。このチラシは紙だけですが、できれば実際どんなことをやるのか、どういう人がいるのかというのが、それこそ二次元バーコードから入ると、動画を見ることができるとか。もうちょっと言うと、シニア支え合いポイントの目的である介護予防と、あと健康寿命ですが、ここが結構みんな話題で、健康寿命と平均寿命のスペンが意外と短いから、ここを延ばしたいと思っている人が結構多い。

65歳だと、あまり実感はないかもしれないけれども、二次元バーコードから動画を見たら、「健康でいられる時間は短いです」と会長がしゃべっているとか、「健康でいるけど、ある日突然入院して、一気にそうなっちゃうんだよ」とか、若干おどかさような感じの動画があると、男の人も、あっ、ヤバいかなと思うのかな。

もう65歳だと、二次元バーコードを駆使する。先ほどデジタル化に差があるとおっしゃいましたが、コロナを経てそこはデジタル化に手を引いてあげる。参加者が少ないところのまず入り口で、この会場に行く前の動機として、チラシをもう少し有効活用できないかなと感じました。

それと、今実際に活動しているサポーターさんに伺いたいのですが、ご自身はどういうきっかけで、今どうしてその活動をされているのか、教えていただければと思います。

【委員】 私はケースがちょっと違うのかもしれないのですが、30年ぐらい企業に勤めていまして、58歳でやめたのです。その間は、小学校も中学校もこの地域ではなくて、当時、越境入学というのがあったのですが、それでほかのところに行っていて、この地域とは全くかかわり合いがなかった。別の職種についたのですが、とにかくこの地

域で何かをしたいということで、社協さんに相談をして、ボランティア制度を紹介していただきました。

そのときに、コーラスのボランティアとか言われて、今まで全くやったことがない。冗談というふうに思ったんですけども、それよりも、何となく地域につながりたいという気持ちがあったので、そのときよかったのは、その施設の方で、ボランティア専門の担当の方がいらっしゃった。その方は今でもずっとやっていらっしゃいます。それから、受け入れてくれるボランティアの人がすぐに受け入れてくれたということで、それですんなり入っていったのです。ただ、男性としてはかなりハードルが高いかなという感じはしました。

もう一つは、やることなんですけど、確かに高齢者施設ですごくいいと思うんですけども、ただ、やっぱりボランティアは圧倒的に女性のほうが多いんですね。男性のやりやすいものとは何だろうなというのがちょっとあるのです。そうすると、高齢者施設に限らず、何かほかのやりやすいようなところもあるのかなという気はしています。

【会長代理者】 つながりたいと思った理由は何ですか。

【委員】 企業でも私は転勤族だったので、いろんなところに行ったはいいんですけども、その関係が、そういう企業の中の1つの関係だけなんです。やっぱりこの地域の中でこれから生きていかなきゃいけないというのもありましたし、この地域への愛着もすごくあった。今はちゃんとこの地域の人たちといい人間関係をつくっていますので、その意味では自分の人生が豊かになっているかなという気がします。

【会長】 この地域にかかわりたいと思っていただけることがすごく重要です。今はもうネットでいいやと思ってしまう高齢者の方も結構多くなっている現状がある。でも、それがどう違うのかということは、やはりどう見せるかというのがすごく重要なのかなと思います。

先ほど他の委員がおっしゃったように、チラシを具体的に作る。具体的というのは、ボランティアの顔が見えるというのはすごく重要です。ボランティアと言われると、何でもボランティアになってしまうので、何をやっているかわからない。でも、例えばさっきのコーラスでもいいですし、園芸でもいいし、自分はこんなことをボランティアとしてやっていますということが見えるというのは結構重要なのかなと思います。

それから、男性としてハードルが高いというのは、どのあたりにハードルの高さを感じるのか。例えば女性ばかりのところに入るのはハードルが高いのか。やっている内容につ

いて女性向けのほうが多くなっていて、やったことがないからハードルが高いと感じたのか、もしよければぜひ教えていただければと思います。

【委員】 私の場合は両方だったと思います。もし地域にという気持ちがなければ、コーラスと言われたときに、ちょっとやめておこうかなという気持ちになったかもしれないです。あとは、やっぱり男性というのは、何かそういうものにすんなり入れない。私の場合は企業で偉くならなかったものですから、そういう意味では割とよかったですけれども、偉くなったりすると、結構ハードルが高いところもあるかもしれないという感じはします。

【委員】 今、偉くならなかったと謙遜されておっしゃっていましたが、昔は団塊の世代というのが、私より10個ぐらい上、今の80歳とかそこら辺の方がおられた。私はある郵便局で郵便局長をやっていたんですけれども、大体偉そうなんですよ。10年たって、私は今年で70になりますが、そういう感覚の人がいなくなるので、今度、仲間に入れられないのではなくて、私らから下のこれから定年になる人は、仲間になれる可能性が非常に高いと思うんです。

私は41歳で民間の企業から転職して郵便局長になったんですが、そのときのきっかけが、職場で上司から「君は幾つになったら田舎に帰るの？どこに住むの？」と聞かれ、「吉祥寺に実家があるので、そっちのほうに住みますよ」と答えたら、「60になって偉くなってから帰って相手にされないぞ。君はどう考える？」と言われた。その瞬間に、ああ、早めにやめて転職しようというので、郵便局長になって、そのまま流されて、民生委員もなりましたし、防犯協会にも入った。

防犯協会は究極のボランティアで、会費も要らないですし、仲間は私らより上で、九十幾つの民生委員のOGがキャンペーンに来たり、そういうきっかけをどんどん探すのに行っていたらいいなと思います。防犯協会の掲示板は市の助成金でつくっていますから、あそこはポスターを貼れます。

【事務局】 大変いい視点をいただきました。ありがとうございます。

1点目の説明会の参加者が少ない。何をやるか、どういう活動か見える見えないということで、動画というのは、やはりこれからの時代、長くだらだらしたものではなくて、パッと端的にちょっとおもしろおかしく見られるというのは1ついい切り口かなと思って、検討させてください。

今やっているこの毎年の協議会でいただいた意見を反映しているところですが、男性の

方の入り口というのを我々もいろいろ考えていまして、施設ともコロナ禍も通して相談しながら、対面でのかかわりがなかなか難しくなってきたので、庭木の剪定とか、送迎車両の清掃、洗車までいかないとは思いますが、そういうところでやっています。また、コロナ明けの今は囲碁とか、マージャンとか、男性の方が入りやすいようなメニューも施設でも用意をいただいています。

まさに昨年この協議会でご提言があったのですが、そういう各施設の活動について切り出したものを、活字では見られるけれども、こういうのを1年中見られるようなものがあると良いとご助言をいただきました。まさに毎年のこういう各施設の活動内容を、市のホームページでアーカイブ化して掲示するようにしました。やれることはやっという形でやっております。

何となく地域につながりたいと思っている方はやはり結構いらっしゃると思いますので、そこをどう拾ってつなげていくかというところは、ホームページに記載だけではなくて、もう一步、きっかけが必要だと思っておりますので、今日の意見をいただいて、またちょっとご相談しながら進めていきたいと思っています。

【委員】 補足ですが、今、新規登録者が少ないというお話が課題としてあるかと思うのですが、今やっしてくださっている方たちが維持していただけることも大きな課題という問題です。そもそも始めていただけるのが60代、70代の方ということになると、そこから20年、30年というのは、正直言ってあまり望めないことです。

今うちの施設は開設31年を迎えているのですが、開設からずっとやっしてくださっているボランティア歴31年という方がいらっしゃいます。その方たちを維持していく1つのポイントとしては、今、委員がおっしゃってくださいましたが、うちは担当のボランティアコーディネーターという人を置いています。彼女も70歳を超えておりますので、いつまで働いてもらえるかわからないのですが、後任が今育っていないのが大きな問題ではあるのですが、今現在は彼女の力で、来た人は絶対逃がさない。

デジタル化と言っても、やっぱり中にはアナログの方もいらっしゃるのと、とりあえず来てみていただいて、ボランティアさんの活動を見ていただければ、その中で、自分にはこれができるという方もいらっしゃると思います。

コロナ禍は非常に長く感じたのですが、その中でやっけていただけたボランティアさんは、こちらでお聞きして園芸ならできるのではないかとということで、お願いした方もいらっしゃいましたし、印象的だったのは、写真ボランティアさんです。写真を撮って、館内に貼

っていただいた。貼る作業はこちらでさせていただきましたが、それを見ると、やはりあちこち出かけられない事情があった。そこで、あっ、こんな景色があったのねとか、昔の武蔵境とか、三鷹の駅の写真とか、今のと対比したりして、大変癒された経験があります。とりあえず来てみていただければ、何かしら出会いがあると思っておりますので、そこかからかなということと、あと維持していくために、こういういいお話をたくさんの方でしていただければいいなと思いました。

【会長】 やはりまさにコーディネーションがすごく重要で、それは多分施設側にとっても大切です。特に小さい施設はなかなかハードルが高いところもあるかと思っておりますので、それをどう支えるのかということも今後ぜひ考えていければと思います。

あと、写真とか、そういう全然イメージがないものが、実はボランティアになるということ、施設側にもやる側にも伝えていくこともすごく重要ですので。そういったことをどう見せるかというのは知恵を絞られればなというふうに思っております。

【会長代理者】 質問です。

さっきすごく重要なキーワードがあって、地域でつながったことで、この地域で安心・安全な気持ちで、今後、年をとっても生きていけるなど。私もそう思っているのです。本音が出られたんです。他の委員の方は、どのくらいのキャリアでそういう安心・安全とか、特に男性の方ならではの自分の立ち位置とか、そういうものが何かあれば教えていただきたい。

会長には、今回の実績報告にはないのですが、以前からシニア支え合いポイントでボランティアに来ている人と、ある意味でプロパーというとおかしいですが、その件で結構いろいろな議論がここ何年かあったのですが、そのあたりが実態として事務局のほうに声があるのか。

ここからは、その実態を踏まえて、65歳になるとみんな介護保険制度で、シニア支え合いポイントに全員が入れます。入るか入らないかだけを選べるとか、そんなことは制度としてできるのか。前提は65歳で介護保険のユーザーになったらシニア支え合いポイントに入る。頑張ってフレイル予防をする。しかし、自分が入らないという選択をすることが可能なかを確認したいのです。

【委員】 お答えします。そんなに高尚なことはないのですがけれども、私は四十数年間同じ会社にずっと勤めていて、60あるいは65で定年になりますので、ここで足を洗って、いい意味で職を転々としたい。そうすることで、いろいろな人とかがわり合える。私

が現役を卒業するときも、その気になれば70過ぎまで同じところにいられたのですけれども、そうすると、70を過ぎたらもう何もできない。しかし、振り返ってみれば、付き合いのある人、話のできる人は、昔から知っている人だけで、新たな人は誰も存在しないなんということがあるのかなと思って、こういった地域活動に入りました。

たまたま私は断ることを知らないので、いろんな人からいろんなお誘いを受けて、気がついてみたら6つもいろんなことやっているの、そろそろ整理しなければいけないかなと思っているところですけども、そんなような昨今です。

【会長代理者】　そもそもはご自分ですか。それとも奥様の背中押しとかあったのか。

【委員】　私でした。

関連して1つだけ。私はコミセンもかかわりを持っていて、コミセンに時々「ボランティアをやりたいんですけどね」と電話が来るんです。その電話を受けた人は大喜びで、「じゃ、ぜひコミセンに来てください」ということばかりやって、私の立場からすると、みんな持っていかれてしまったと思うような今日このごろなんですけれども、やはりそういった電話をかけてきてくれた方はいろいろなニーズを持っています。本来であれば、そのニーズを引き出せば、福祉に関することをやりたいとか、防災に関することをやりたいとか、そういうことが出てくると思いますので、そこを何かうまいぐあいにできないものかなと考えております。民生委員を初め、いろいろなところで、日々、欠員が出ているのですが、そういったことがうまくできれば、少しは解消できるのかなと思いました。

【会長】　私への質問は、もちろん制度的な話で、要は65になったら強制加入にして、離脱はできるみたいな。一番わかりやすいのは、この手帳を全員に送って、いつでもできますよみたいにするという制度は、やろうと思ったら全然できると思います。

そもそもこれは発想なんですけど、何でこういう仕組みを入れているかという、高齢者の方々が外に出て誰かと話す。これだけで健康が維持できるんですね。一切、外に出ない孤立の人に比べて全然違うことがわかっている。

ただ、難しいのは、そのときに発想が2つあって、1つは、孤立しやすそうな人を集中的に孤立させないようにしようというアプローチと、とりあえずみんなにかかわらせようというアプローチがあります。昔は前者だったんです。孤立しそうな人に一生懸命やりましょう。でも、これはうまくいかないんです。そもそもそういう人は来てくれない。それでとにかくみんなにアプローチしましょう。健康体操もリスクがある人だけ体操するのではなくて、とにかく誰でも体操しましょうとしたほうが、実は効果があるというのがわか

っているのです。なので、発想として、みんなにこれをやるというのもありかと思えます。ただし、やると、今度は税金の無駄とか、そういうことを言われかねないので、できるだけ多くの人に、とりあえずデフォルトでも入っている仕組みなんですよみたいなことをやっていくというのが、私は全然ありなのかなと思っています。

【会長代理者】 それを踏まえて、事務局としてどうでしょうか。

【事務局】 なかなか大胆な提案かなと思いますが、後ろ向きなことを言うつもりはないんですけれども、今の制度だと、活動される方も新たに福祉施設とかに行かれるので、ご自身の安全と利用者の方のボランティアでかかわる方のために、社協さんのほうにボランティア保険にかかわってもらっているのです。だから、実際そこで活動される場合、そこをどう整理するかというのがひとつあるのかな。

シニア支え合いポイント制度というのは、65歳以上の方の介護予防と寿命の延伸のためなので、介護保険制度の通知に入れるというのは1個やっていることなんですけれども、そこでもっとより積極的なアプローチをしていくというのは、ひとつの手なのかなと思います。ご自身の健康にフィードバックされるということをもっともっと市が打ち出していく必要があるのかなと思います。

ボランティア全体に対する市の統一的なところというのがなかなかないので、市民活動に行ったり、うちに来たり、ボランティアと聞いただけで、ボラセンさんにつないでというところというのがまだ整理されていないのかなというのがありますので、そこは活動の担い手不足の解決策も含めて連携が必要なのかなと思います。

ちょっと話が離れますが、来年度、庁内で、社会参加や社会活動を何らかした方に対して地域のポイントを付与するという、シニア支え合いポイントの全世代版みたいなところを導入ができるかどうかという検証をしようとしているところです。その動きも地域支援課もちゃんと注意して、市として活動の支援になるような、インセンティブになるような仕組みがつくれればかなと思っています。少し広い目で動きが進んでいくと思いますので、そこはご意見もまたいろんな機会でいただければと思います。回答になっていませんが、よろしくお願いします。

【会長】 今後こうしたほうが良いという提言がたくさん入っておりますので、今の議事はここで1回閉めさせていただきまして、来年度の事業計画についても既にもう大分議論も出ていますが、移らせていただければと思います。

(3) 令和8年度事業計画

事務局より資料6について説明があった。【会長】 今、来年度の事業計画についてご説明がありましたが、皆様から何かご質問やご助言、ご提案等がございますでしょうか。

【委員】 先ほどから言っている防犯協会のキャンペーンの参加というのは、シニア支え合いポイント制度の活動へ組み入れるということは可能なんですか。

【事務局】 貴重な提案ありがとうございます。この制度の狙いは、できるだけ多くのシニア層の方に、活動を通して介護予防と寿命の延伸、ひいては介護分野の人材確保というところにつながればと思っている制度です。なので、まず、防犯協会さんがこの協力団体に登録してもらえるかどうか。その前段として、どういう活動がボランティアとして提供できるかというところもちゃんと確認した上で参加していただければ、その横展開というのを我々すごく期待するところです。あと、市としても、できるだけこの制度のサポーターをふやす。それから活動できる団体をふやすことが一番の命題だと思っていますので、ぜひ前向きに検討させていただきたいと思います。

【委員】 防犯協会の活動としては、市役所の保険年金課をかたる還付金詐欺というのが一時期大変はやりまして、今も電話がかかっておりますので、JR3駅の無人化ATMに、プラカードとかパウチしたものを持って、電話に出ないように、またATMの前で電話をかけないでくださいと、警視庁のつくったパネルがあって、それで声かけを約1時間しています。近隣から、吉祥寺でも20人ぐらい、武蔵境は25人ぐらい集まるので、そういう方々に、これに参加したら、毎回このポイント手帳を持ってきてくれれば判こを押すよというのが可能であれば、すそのを広げるという意味で少しは役に立つかなとお話ししました。

【会長代理者】 前段の振り返りの中で男性がもっと参加しやすいということから始まって、もっと様々なボランティア活動を、事務局から市でもというお話があったのですが、それを踏まえて今他の委員から受け入れ先のご提案があったと思うのです。

ただ、一方で、ちょっとネガティブな意見を言わせていただくと、先ほど他の委員から30年ボランティアしている人がいるという話で、やめどきが難しいんです。本人はすごく楽しくて、それが日課になっていて、最初はそれこそ自分が安心・安全で元気でつながっていきたい。みんなと楽しくやりたいというところに入っている。それが日課になると、自分が年をとって、端からみると心配になってしまうような状況でもボランティアに行っ

てしまうわけです。そうすると、受け入れるほうは、やめてとも言えないし、どうするかというのが結構あちこちで起こる話です。私も自戒を込めて、ある程度線引きをして、ここまでやって、次はこうというふうに、先輩方の様子を見ながら思っている日々なんです。

会長に伺いたいのですが、フレイル、それから健康寿命を延ばしますということで、介護保険の中で限りなくみんな元気で、できれば介護保険のお金が出ないような状況にしたいということを考えていきつつ、今言ったように、どこで線引きするとか、どうしたらいいか。今後皆さん施設とかも悩むところだと思うので、そこをちょっと教えてください。

【会長】 健康寿命の延伸は、実はトータルでの社会保障費用の削減のためではないということは1つ注意しておいたほうがいいです。物すごくラディカルに言うと、若くして亡くなる人が増えたほうが、介護保険料にしても何にしても社会保障料としては安くなります。ただ、それは人間としての生活の質が下がる。ウェルビーイングが下がる。

要は、何で健康寿命の延伸が大事かということ、できるだけ長く生きていただき、かつ、生活の質を高めて生きていただきたいということが目標にあるということです。実は長生きしたほうが、当然ながら社会保障料はかかりますので、それは国の財源のためではないのですね。これは結構勘違いされる方が多いので、そこは注意したほうがいいです。

先ほどのやめどきの話はすごく重要です。ウェルビーイングが高いときというのは、80代で若干衰えていても、かわり合いを続けていくということが、実はウェルビーイング上すごく重要です。そうすると、むしろ大事なのは、今あるボランティアに活動を当てはめるのではなくて、ある程度衰えていってもかわり続けられるボランティアとはどうあるのかということなんです。

例えば私はイギリスでいろいろな事例を見ている中で、物すごくおもしろいと思うのは、これまでは施設に行ってボランティアをしてきた。だけど、それが難しくなってきた。だけど、例えば電話をかけるボランティアは家からでもできる。あるいは、ちょっとした絵を描くボランティアだったらできるかもしれない。これはどちらかということボランティアのコーディネート力が大事なんです。要はこれまでどおりの形でやるのだったら、危ない人に来ていただくと困るよねとか、途中で交通事故が起きたらどうしようとかとなってしまっても、たまには家でもできるボランティアはどうかとか、あるいは、そういった人が来ると、周りがむしろ「すごいね」と。これは自分の目標だみたいに思えるというのはすごく大事な感覚です。

ボランティアの方にやってもらうという発想なのか、来てもらってやることをやっていただければ十分と考えるのかで多分全然変わってくると思います。恐らく今は80代からのボランティアがふえていく中では、後者の考え方をどうやってつくっていくのか。ただ、これは施設にも余裕がなければいけないし、コーディネート力も必要です。そうすると、行政が支えられることは、それを施設に丸投げするだけではなくて、一緒に考えたり、一緒に知見を広げていく。あるいはボラセンなども、どうやってその人に合った活動がつかれるかということを考えていく。恐らくこちらのほうをやっていかないと、施設に丸投げされると、特に小規模の施設ではさすがに大変になってしまうので、そこを考えていくことが必要なポイントなのかなと思っています。

【会長代理者】 次のフェーズに行くという感じですかね。

【会長】 そうです。まさにみんなどんどん高齢化が進んでいくので、高齢化に対応したボランティアのあり方とか、施設のあり方とか、支援のあり方を僕たちが考えていく。多分そういうフェーズなのかなと思っています。

【委員】 防犯協会のキャンペーンの参加者は現況届を出しているようなものなんです。「あっ、元気だった」「ちょっと風邪引いたわよ」とか、外に出て行って、仲のよかった人と会話するのが楽しくて来ているのです。

【会長】 本当におっしゃるとおりですし、そこに来てくれれば、新しい情報を伝えることもできるのです。実は今こういうことがあるよとか、こういう新しいことがあるよ。それは皆さんなかなか知らない人が多いのですけれども、それを伝えるきっかけにもなる。

さらに言うと、そこに来て、そこでかかわって、自分がやっぱり生きていてよかったなというふうに思える。さらに話せる人がいる。人と話すというのは、相手がいなければ話せないのです。そうすると、実は話し相手にもなっているから、そういう意味では、誰かと話すだけでもボランティアという意味がある。

その辺、ある程度物を広く捉えていくと、本当におっしゃっていただいたように、まさにかかわることができる。それがその人にとっても生きがいでけれども、実はほかの人にとっての話し相手のボランティアになっているんだとも言える。そこまで考えていってもいいのかなと思っています。迷惑をかけるという発想でとってしまうと何もできなくなるので、これは迷惑ではないんだよと、そこを解除してあげることがむしろ大事なのかなと思うところです。

来年度の事業計画について何かございましたら、ぜひコメントでもご意見でもいただけ

ればと思います。

【委員】 実は仲間に「何か言ってくることはあるか」と聞いたら、かなり意見が出たので言わせていただくと、ポイント交換で、交換内容の1番に「寄付」がある。2番が「野菜等引換券」「人間ドック」「図書カード」とあるのですが、これに違和感がある。これが結構多いらしいんです。ある僕のメンバーは「すみません、申しわけないんですけど、寄付じゃなくていいですか」と言っているそうです。小さい問題なのですけれども、心の問題みたいなところもあるのかな。そこのところも少しお願いできればと思います。

【事務局】 確かに我々は寄付をしていただけるとありがたいという気持ちがあるので、そういう記載の順番になっているかなと思います。まさにこの協議会の趣旨であります制度の運用とか進むべき道をどうしていくかということに大小の様々な貴重なご意見をいただいていると思っております。去年いただいたところも、スタンプを大きくするとか、変えられるところから手をつけていっているつもりです。そういうところも、令和8年度は1番に「寄付」と書いてある手帳を用意しているので、令和9年度以降改善していきたいと思えます。貴重なご意見ありがとうございます。

【委員】 今のことに付随して、うちのほうに既に継続したボランティアさんが来ていらっしゃるんですが、これは3月からポイント付与の切りかえということで、市のほうからももうお渡しはされているのでしょうか。3月からこれに切りかわるのか。それと、私、担当者と話をしてないのですが、判こも各施設に郵送されているのですか。

【事務局】 判こは令和8年度の予算でつくってすぐ配るという手続なので、できる限り早めにお届けしようと思えます。

【委員】 今の段階では小さいもので押しているということですね。4月以降はいただけるということですね。わかりました。担当者にお話しします。

【会長代理者】 他の委員の意見から議論になった「寄付を促す」というところで、例えば手帳の6ページ、7ページにポイントと交換できる内容が両開きであるのですが、介護予防の趣旨に照らすと、例えば何がトップになるんですか。「人間ドック」「市内産野菜」あたりでしょうか。

【会長】 ちなみに、実は寄付があったほうがいいよねというのは、制度設計の段階から既にやっていたのです。1つは、日本は寄付が少ないということと、もう1つは、単に寄付するだけではなくて、寄付をしたことをちゃんと見せて、いかに意義があったかを、寄付してくれた方もちゃんとやろうよということも1つ重要なポイントでした。なので、

寄付はあっても全然いいのです。

どちらかというと、一番初めにあった議論は「図書カード」です。むしろ生涯学習ではないんですが、やってもらったもので、何か活動を考えていただこう。

あと「QUO カード」も実は大事です。というのは、実は皆さん結構持ち出ししているのですね。例えば刺繍のボランティアのときには、針とか糸は実はもう意外に自分のものを使ってしまっているとか、園芸なども普通にスコップとかを結構持っていらっしやるとか、そういうのがすごくたくさんあるので、ボランティアで使えるものを自分たちで賄っていただくという部分もある。

また、5,000円というのは、飲み食いするからという話よりは、実はボランティアを支える部分でも、細かいものもあるので、それに使っていただいても全然構わないですよ。ただ、もう持っているとか、特に要らなくて、寄付していただくなら、それはこのような効果がありましたよと見せるということを考えていただこう。そういうところを重要視しています。

「人間ドック」も、そういう意味では健康寿命にかかわるので、出てくるけれども、これがトップに来るのはちょっとやり過ぎな感じもありますので、そういったことを考えていただくときに、例えば一言あるといいかもしれないですね。「ぜひ学習に使ってください」とその一言を入れておくだけでもいい。しかも、「使え」ではなくて、「学習にも使えます」ぐらいの形で入れておくだけでも、ちょっとした意味があるかもしれません。

もらって申しわけないではなくて、こんなふうな活用をしてくださいということを一言だけ言っていただくだけでも、全然印象は変わります。もちろん、図書カードを使って漫画を買っていただくが何をやろうが構わないのですが、何かそんなこともありますよと見せるだけで、心理的な負荷が減るのかなと思うところです。もし来年度以降に変えられるのだったら、考えてもいいかなと思います。

【事務局】 今の意見も踏まえて、可能な限り内容を把握して、検討して修正をかけていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【会長】 私からも1点ありまして、制度からそろそろ10年なんですね。継続表彰というほど大きいことをする必要はないと思うのですが、例えば10年間ずっとコンスタントにやっけていらっしやる方に関しては、ちょっとした小さいグッズを贈呈するとか、ケアリンピックにお招きするとか。

あと、これはほかのいろいろな国々のボランティアとかを見ているときに、ほとんどの

国はボランティアにポイントをつけるとか一切ないんですね。そのかわりに結構ちゃんとした表彰をやっています。それこそわかりやすく言うと、イギリスだと、王室に招くとか、ふだんなかなか入れない公園に入れるとか。武蔵野市の場合だったら、松露庵でやるとか、赤星邸に専用で招いてあげるとかです。

そういったあまりお金がかからないんだけど、ちょっとした何かこんなことをやったらこんなことをしてもらえた。さらにもう1回やろうとか。また5年後ここに来たいよねと思えるようなもの。年齢も年齢なので、僕は5年ぐらいで十分だと思うのですが、そういったような、あまりお金がかからず、でも継続していてよかったと思えるような仕組みを入れていってもいいのかなと思います。

もうちょっと言うと、途中で切れていても構わないんです。やっていてくれれば、例えば5年間登録しただけでも、そのかわり合いの機会をくれているということでもあるのです。そして来たときに、「ところで、こんなボランティアもさらにありますけど、どうですか」ということを言えるとか、何かそういうような仕組みとして使っていくというののもあっていいのかなと思います。

ちょうど10年という区切りもあるので、ちょっとした継続表彰とか、そんなことをやるとか。認知症サポーターにオレンジの輪っかがありましたね。ああいうようなちょっとしたものを見せていくだけでも、少し気分が変わっていきますので、ボランティアをやってよかったなと思えるような仕組みをぜひ考えていただければと思います。

【事務局】 ボランティアをやっている方のモチベーションというのは一番大切かなと思いますので、10年の節目に当たり、10年になってしましますが、これから検討をさせていただきたいと思います。貴重な視点をありがとうございます。

【会長代理者】 例えばですが、市民文化会館の壇上で、委員もいて、表彰式を、アカデミー賞受賞みたいな感じの雰囲気やって、ゲストも呼んで、65歳以上の方を招待する、というようなものはいかがでしょうか。

【事務局】 もう広がるばかりといいますか。そういうのはちゃんと前向きに検討していくべきだと思います。来年、社協の新社屋もできますので、ふだん行けない屋上を見られるとか、いろいろ手はあると思いますので、よろしくお願いします。貴重な意見ありがとうございます。

【会長】 そのほか皆様から何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。どちらかというと、事業計画というよりは、事業実績の段階で、皆様から本当に多様な意見をいた

だいておりました、事務局も本当に柔軟に細かいことをいろいろ対応いただいています。毎年のように変わって行って、それがよりよい制度につながっていきます。皆様からもご意見、ご感想等どんどんお寄せいただきながら一緒に考えていければと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、この議事については終了したいと思います。

4 その他（略）

—

5 閉会

午前 11 時 49 分 閉会